

■ 報告 ■

本事業は土佐清水市の文化的な環境を豊かにし、若い世代を中心とした交流の場を作ることを目的に手作り楽器のアーティストの音楽家 ICHI さんを招致しライブを開催しました。併せて ICHI さんの楽器作りのワークショップと、土佐清水市で活動されているキャンドルアーティストのいどり candle さんに、クリスマス前の開催でしたのでツリーキャンドルのワークショップをしていただきました。宿毛市でお店をされているイラストレーターの茜製作室さんにも仏画の塗り絵のワークショップをしていただきました。いずれも、子どもたちと親子で、ファミリー層で楽しんでいただけるように企画をいたしました。ICHI さんは、普段はイギリスに住まれてまして、たまに日本に帰って来てツアーをされてます。その一環の中で今回ライブをお願いいたしました。

土佐清水市は本当に高知県の端なので、アーティストの方をお呼びするだけで結構経費的に厳しかったりするので、今回、助成を受けさせていただいたので、会場のご協力もあって無料で開催することができました。今回の会場となった「弥栄」という場所は、約 20 年間閉店していたお店で、そこを会場として使わせていただいたことで、地域の人が再び集える場所となったのではないかと考えております。

今回の事業を通して、いろいろ手伝っていただいたりして、地域の方との連携が深まり、アートイベントを通して子どもたちにとって貴重な体験の機会を提供できたのではないかと考えております。今まで同じようなイベントを個人的に開催したことも何度かあるのですが、なかなか個人で開催してもターゲットとしているお客様に足を運んでいただくことが本当に難しかったんですが、今回助成を受けたことで市教育委員会のご協力をいただいたり、チラシも保育園や小学校に配布していただけて、そのようなこともあってたくさんのファミリー層の方や、SNS を使ったことで県外の方も遊びに来ていただくことができました。

個人的な反省点としまして、初めて助成金を使わせていただきまして、SNS などでも告知はしたのですが、もっと早い段階で告知ができたならもっとたくさんの方にお越しいただけたなと思っており、次は、そういうところも意識をして、今後に繋げていけたらなと思います。

■視察委員の意見・質問■

文化の地域格差の解消ということと、子ども時代に多様な文化に触れる機会をとにかく創出するのだというところを明確に打ち出されていて、KAPの助成金があるなしに関わらず、そもそもそこを継続していくという意思がはっきりされているのは、とてもよいことと思いました。そこを感じたうえで、子どもに文化に触れる機会をというところなんですけど、子ども向けじゃなかったところがとてもよかった。大人の社会の中で、大人の文化の雰囲気子ども時代から触れられる機会は素晴らしいことだと思いました。

最近、移住された方が地方でコミュニティを作っている、そこにもともと居た方たちの若いご夫婦や家族が「地元には素敵なコミュニティがあるんだ、私たちも」といったことを目の当たりにして、だんだん広がっていている。それがお仕着せではなく、緩く継続的に繋がっている雰囲気はすごく大事ななと思いました。

課題は広報部分と、場所が少し分かりづらかったというところで、今から継続されていくということは明確に思っている感じなのですが、継続していくうえで、何が一番課題だと思われますか。(大原恵里子委員)

ー土佐清水という立地は、まず、人口が本当に少ないので、どういう企画をして、どういう風に足を運んでもらうのかというのが一番の課題だと思っています。そのためにはどうすればいいのかというのを毎回考えて企画しています。

今回、助成を受けさせていただいたことで、市と連携させていただいたり、自分の力だけではご協力いただけなかった方々にも案をいただいたりと連携を取って来たので、わたし自身もいろんな方と繋がって行って、より広げていけば足を運んでいただきやすくなるのかなと思っています。子どもたちに向けてということでしたら、子育てをしているお母様方との接点をこれからもっと増やしていけば、もっと集客できるのではないかと考えています。

結局、地道な一步一步ですね。

ーなかなかSNSだけだと興味のある方しか来ていただけないので、それ以外の方に伝えるには自分の活動範囲の方といかに繋がっていくかが重要かと思っています。